

注及び参考文献の表記について

- (i) 参考文献は、和文と英文に分けて、和文文献の後に英文文献を付ける。和文は五十音順、英文は著者Last Nameのアルファベット順とし、同一著者の論文・著作は、刊行年順に記載する。文献には通し番号を付さない。
- (ii) 本文中で参考文献を引用する場合には、注とするかあるいは「田中(2004)によれば・・・」、「・・・である(田中,2004)」というように表記する。著者2名の場合は、“・” (和文) および“and” (英文) で2名を記し、3名以上の場合は、“ほか” (和文) および“et al.” (英文) とする。
- 例) 「・・・である(田中・山田, 2000)」「・・・である(Dosi et al., 2003)」
同一の著者が同じ年に複数の論文・著作等を刊行している場合は、(渡辺, 2005 a) (渡辺, 2005 b) のように年号の後にアルファベットを付して区別する。
同姓の著者が同じ年に論文・著作を刊行している場合は、フルネームを記して区別する。
- 例) 「・・・である(佐藤剛, 2005)」「・・・である(佐藤尚人, 2005)」
- (iii) 参考文献の論文の表記は以下の通りとする。
- ・和雑誌：著者名(発行年)「題名」『雑誌名』 巻, 号, 頁.
例) 山田太郎(2007)「情報経営の構想と課題について」『日本情報経営学会誌』 Vol.7, No.1, pp.12- 34.
 - ・洋雑誌：著者名(発行年) “題名,” 雑誌名, 巻, 号, 頁.
例) Yamada,T.(1999) “Principles of Information Management,” *Journal of Information and Management*, Vol.7, No.1, pp.12-34.
- (iv) 参考文献の書籍および書籍における特定の章の表記は以下の通りとする。
- ・和書：著者名(発行年)『書名』 発行所.
ここで、発行所とは当該書籍を発行した出版社等を表す。
例) 山田太郎・佐藤二郎(1999)『情報経営の展開』IM出版.
吉田浩一(2003)「情報経営の概念」山本五郎(編著)『情報経営入門』IM出版, pp. 97-117.
 - ・洋書：著者名(発行年) 書名, 発行所(翻訳書の場合は、翻訳者(発行年)『書名』発行所を入れる。)
例) Yamada,T.(1999) *Information Management*, IM Publishers.
Yamada,T.(2000) *An Introduction to Information Management*, IM Publishers (加藤三郎訳(2002)『情報経営入門』IM出版)。
Nishino,T.(2004)“Information and Organization,”in T.Yamada and K.Okada(eds.) *Management in Internet Age*, IM Publishers, pp.247-268.
- (v) インターネット文献の場合は、著者名(分かれば著作年) 文献タイトル, もしあればサイトタイトル, URL, (URL最新確認年月日)を表記する。
- 例) 投稿論文委員会(2003)「研究論文の投稿規定」『日本情報経営学会』

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/oa/down/toukou/pdf> (2003年2月1日).

Lauren P.(1993)“A Hypertext History of Multi-User Dimensions,” MUD History,

<http://www.utopia.com/talenl/pb/muddex/essay> (2005年3月15日).

(vi) 注釈は、本文中の該当箇所の肩に右側括弧の通し番号<1)2)3). . >を付ける。

注の表記は、以下のようにして、参考文献リストと対応づける。

例) 1)山田 (1999) pp.35-37.

以上